



2026年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月10日

上場会社名 株式会社 F I X E R 上場取引所 東
 コード番号 5129 URL <https://www.fixer.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松岡 清一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 磐前 豪 (TEL) 03(3455)7755
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第3四半期の連結業績(2025年9月1日~2026年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第3四半期	2,356	—	△1,878	—	△1,873	—	△1,842	—
2025年8月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2026年8月期第3四半期 △1,878百万円(—%) 2025年8月期第3四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第3四半期	△122.86	—
2025年8月期第3四半期	—	—

(注) 1. 2025年8月期第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、2025年8月期第3四半期の数値、対前年同四半期増減率及び2026年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 2026年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第3四半期	2,942	2,331	78.8
2025年8月期	4,493	3,807	83.7

(参考) 自己資本 2026年8月期第3四半期 2,318百万円 2025年8月期 3,760百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—	0.00	—	—	—
2026年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想(2025年9月1日~2026年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,348	9.2	△1,546	—	△1,541	—	△1,566	—	△105.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年8月期3Q	15,657,400株	2025年8月期	14,798,100株
② 期末自己株式数	2026年8月期3Q	80株	2025年8月期	80株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年8月期3Q	15,000,342株	2025年8月期3Q	14,780,435株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

世界の生成AI市場は、技術的な可能性を探る実証実験 (PoC) のフェーズを終え、企業の基幹業務に統合し、具体的な投資対効果を生み出す「本格実装」の段階へと移行しております。AIの利用範囲が業務の中核へ広がるにつれ、その処理を支える計算資源 (推論基盤) への需要は中長期的に拡大するとともに、AIの継続利用を前提としたコスト管理やデータ管理の重要性も高まっております。こうしたなか、市場のニーズは大きく二つの方向に整理されつつあると考えております。

一つは、パブリッククラウドを活用して最新のAIを迅速かつ柔軟に利用するニーズであり、もう一つは、政府官公庁や金融機関を中心に重視される、データを外部に出さず自社の管理下でAIを運用する「データ主権 (デジタル・ソブリンティ)」を確保するニーズであります。

当社グループは、これら二つの潮流は相反するものではなく、日本のエンタープライズDXを加速させるためには、両者の要件に同時に応えることが重要であると捉えております。この認識に基づき、当社は従来のプロジェクト型サービス中心の事業構造から、クラウド (「GaiXer (ガイザー)」) で培った生成AIサービスやアプリケーションをオンプレミス環境でも提供可能とする「Sovereign GaiXer (ソブリンガイザー)」と組み合わせ、継続的な収益を生み出すビジネスモデルへの転換を推進しております。

当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日) においては、これまで収益に寄与してきた一部の大規模案件 (万博関連等) の終了の影響を受けた一方、事業構造転換に向けた取り組みを着実に進め、売上高は2,356百万円となりました。サービス別の内訳は、プロジェクト型サービスが504百万円、リセールが1,167百万円、マネージドサービスが478百万円、SaaSが195百万円、ソブリンAIが5百万円となりました。

オンプレミスAIプラットフォーム「Sovereign GaiXer」については、2026年4月より正式受注を開始するとともに、複数台接続機能の実装や社内利用を開始し、AIを業務基盤として利用するための機能拡充を進めました。また、販売代理店網の整備を進めるとともに、営業体制についてもクラウド版サービスとSovereign GaiXerを個別に提案する体制から、クラウド版サービスをSovereign GaiXer上で提供することを前提とした販売体制へ移行し、Sovereign GaiXerを中心とした販売活動を推進しております。

医療分野では、藤田医科大学岡崎医療センターおよび済生会向島病院への「GaiXer Medical Agent」の導入を進めるとともに、「AI医事課長」の販売活動を開始するなど、医療AIの社会実装を推進しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,356百万円、売上総損失11百万円、営業損失1,878百万円、経常損失1,873百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失1,842百万円となりました。

この営業損失は主に、一部の大規模案件の終了に伴う売上および利益の減少に加え、「Sovereign GaiXer」を中心とした事業構造転換に伴う製品開発、販売体制の再構築、販売チャネルの整備等の先行投資を実施したことによるものであります。また、当第3四半期連結会計期間より、費用をより適切に反映する観点から、従来販売費及び一般管理費に計上していた顧客へのサービス提供に直接関連するクラウド利用料および業務委託費等の一部を売上原価に計上する費用区分の見直しを行っております。なお、販売開始前の「Sovereign GaiXer」関連機器の仕入は仕掛品、前渡金等として計上し、出荷・検収時に売上原価へ計上しております。

当社グループは、新卒・中途採用を抑制するとともに、営業体制や組織体制の見直しを進めることで固定費の最適化を図っております。成果に応じた処遇のメリハリのある評価・報酬運用のもと、生産性を基準とした人員構成の最適化を進め、人員は緩やかな減少局面に入り、人件費の改善を進める一方、「Sovereign GaiXer」を中心とした高付加価値プロダクトへの投資は継続しております。

当社グループは、この事業構造転換に向けた先行投資が中長期的な企業価値の向上に資するものと考えており、販売体制の再編、販売チャネルの拡充およびプロダクト開発を通じて、「Sovereign GaiXer」を中心とした収益基盤の構築を進めてまいります。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は2,942百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,550百万円減少しました。主な要因は、現金及び預金が1,370百万円、売掛金及び契約資産が325百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は610百万円となり、前連結会計年度末に比べて74百万円減少しました。主な要因は、賞与引当金が60百万円、買掛金が16百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,331百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,475百万円減少しました。主な要因は、資本金が200百万円、資本剰余金が200百万円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失1,842百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度の業績予想につきましては、2026年4月10日公表の数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,088	1,718
売掛金及び契約資産	767	442
仕掛品	—	58
その他	288	351
流動資産合計	4,144	2,570
固定資産		
有形固定資産	0	24
投資その他の資産	348	347
固定資産合計	348	371
資産合計	4,493	2,942
負債の部		
流動負債		
買掛金	291	274
短期借入金	—	10
1年内返済予定の長期借入金	7	4
未払法人税等	1	8
賞与引当金	109	49
その他	272	263
流動負債合計	683	610
固定負債		
長期借入金	2	—
固定負債合計	2	—
負債合計	685	610
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,214	1,415
資本剰余金	1,179	1,380
利益剰余金	1,365	△477
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,760	2,318
新株予約権	1	2
非支配株主持分	45	10
純資産合計	3,807	2,331
負債純資産合計	4,493	2,942

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
売上高	2,356
売上原価	2,368
売上総損失(△)	△11
販売費及び一般管理費	1,866
営業損失(△)	△1,878
営業外収益	
受取利息	2
雑収入	2
営業外収益合計	5
営業外費用	
支払利息	0
営業外費用合計	0
経常損失(△)	△1,873
特別利益	
新株予約権戻入益	0
特別利益合計	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,873
法人税等	4
四半期純損失(△)	△1,878
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△35
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,842

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 2025年9月1日
至 2026年5月31日)

四半期純損失 (△)	△1,878
四半期包括利益	△1,878
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,842
非支配株主に係る四半期包括利益	△35

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、クラウドサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	3百万円